

■ 地域の先生に学び、地域に誇りを持てる子に！ （矢倉小学校）

1 【活動の趣旨】

子どもたちが体験を通して、地域のよさや素晴らしさに触れたり気づいたりする活動を計画し、地域の方々とふれあいながら、学びを深めていく。

2 【特徴的な活動内容】

○米の一生について学ぼう（田植え 5年生）

5年生の「田んぼの学校」の事業と連携し、地域の方の田を借用して米の一生について学んだ。コロナ禍の為、田んぼに出向くことができない代わりに、田植えの様子と米作りについて地域の方へのインタビューをビデオ撮りし、それを用いて学校で学習をした。



【 鎌で稲刈り体験 】

○地域の方と稲刈り体験、収穫の喜び（稲刈り 5年生）

稲刈りのやり方の説明を聞き、体験した後、昔の道具を使って足踏み脱穀の経験もできた。最後は落ち穂拾いを行った。収穫を通して米の生長や米を大切にすることを学んだ。

3 【実施に当たっての工夫】

○田植えについては、休校中で実施できないため、学年担任や地域連携担当教員、地域コーディネーターが借用田に出向き、田植えの様子や地域の方へのインタビューをビデオ撮りし、それを学校での学習に使用した。

○稲刈りについては、地域ボランティアの方々へ実施前の検温と活動中のこまめな消毒をお願いした。あわせて、熱中症予防（水分の用意、スプリンクラーの設置等）に努めた。児童は、自宅での検温と稲刈り前後の消毒を徹底した。実施中はマスクを着用して学級毎に時間をずらし、クラスをグループ分けするなどして密を避けた。

4 【事業の成果】

○コロナ禍で実施が危ぶまれたが、できる限りの感染防止策を講じて学びの場を確保することができた。田植えは実際に体験できなくても、ビデオを用いて、米作りの様子や米作りへの思いを知ることができ、次の活動へつなげることができた。

○新型コロナウイルス感染防止を中心に実施方法等を学年担任と地域ボランティアの方々で調整し、密を避けて実施できた。

5 【事業実施上の課題】

ボランティアの方々の高齢化が進み、活動の存続が危ぶまれている。さらにコロナ禍において、どのように充実した体験活動が仕組めるのか今後も成果と課題を出し合い、考えていく必要がある。地域の人材確保や活動の継承に努め、ねらいを明確にし、見通しのある計画を立てて、よりよい事業にしていきたい。